

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	インプロビゼーション1	
科目基礎情報					
開設学科	MU科	コース名	プレイヤーコース（ギター）	開設期	前期
対象年次	1年	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	必要な資料はプリントを配布します。				
担当教員情報					
担当教員	篠崎 保		実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン	
学習目的					
様々な楽曲、コードチェンジに対し、素早く反応して適切なフレーズを弾けるようになり、自身のパートアレンジも含め、幅広く音楽に生かしてゆく。現場ではあらゆるジャンル、コード進行に対しての対応力のある演奏力が求められる。自身が弾いているフレーズが何のスケールの何番目の音なのか、選択したスケールは正しいのかを意識できる音楽家の育成を目的としている。テクニック、知識、演奏スキルを身に着けることにより、自身のスタイルをプロデュースできるように育成していく。					
到達目標					
基礎的な楽曲を理解し、メジャー・マイナー・ペンタトニック・スケールを使ってフレーズを作り、表現力のあるソロを弾けるようになる。自身のプレイをしながら、コード進行、コードトーン、使用出来るペンタトニックスケールを常に頭の中で分析できるギタリストになることを目標としている。ペンタトニックスケールの音階を完璧に理解し、ペンタトニックスケール以外のスケールへの足掛かりを作る。					
教育方法等					
授業概要	課題曲に沿って、コード・アナライズ、スケール等を説明し、参考フレーズを元にソロを弾けるように反復練習する。授業内では必ず読譜が必要になる。コード、スケールを理解する上で、ポジションで覚えることも重要だが、譜面をしっかりと読み込み、譜面を読める音楽家への成長を促す授業。				
注意点	必ず五線紙を用意し、授業内容のメモを取ること。新しい事を身に付ける為には、相当量の練習が必要であり、授業以外の時間にも出来る限り多く練習が必要となる。授業内では、反復練習のエクササイズ、譜面の読み方、譜面書き方、現場での譜面の扱い方などもレクチャーする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	マイナー・ペンタトニック・スケール		ペンタトニックスケールを弾き、反復練習		
2回	ボックス・ポジション		ペンタトニックスケールのボックスポジションの理解		
3回	表現力をつける		ギターの様々なテクニクを紹介、習得		
4回	ワイドレンジなペンタトニックスケール		ペンタトニックスケールのボックスポジションを複数理解する		
5回	ブルー・ノート		ペンタトニックスケールにブルーが入るスケールを覚える		
6回	ブルース進行内でのフレーズ		ブルースリックを複数紹介、キー別にフレーズ習得		
7回	ブルースについて		ブルース進行を理解し、習得する		
8回	メジャー・ペンタトニック・スケール		メジャーキーでのペンタトニックスケールを修得		
9回	メジャー、マイナー・ペンタを使い分ける		マイナーキーでのペンタトニックスケールを引き分ける		
10回	サブドミナント・コードに合う音使い		サブドミナント時のソロに使う音を理解、習得		
11回	マイナー・ペンタにメジャー・ペンタを混ぜて使う		アドリブ時にメジャー、マイナーペンタを織り交ぜる		
12回	M3rdとm7thを使ったバックング		コード進行のバリエーションを理解、習得する		
13回	おさらい①		ペンタトニックスケールでアドリブソロを発表		
14回	おさらい②		コード進行を意識したアドリブソロを発表する		
15回	おさらい③		ペンタトニックスケール、ブルースノートを入れたアドリブソロを発表する		